

美術科学習指導案

日時：平成20年7月4日(金)2校時 美術室

学級：2年2組 男子20人, 女子17人 計37人

授業者：田村敏之

1 題材名

「伝えよう大切なこと」～グループで企画・デザインするポスター制作～

2 題材について

(1)生徒観

本校生徒は、学習全般に前向きに取り組んでおり、美術の学習においても新しい課題や製作の活動に関心を持って取り組もうとする姿勢が感じられる。2学年は昨年度の基礎基本を中心とした学習から個々の表現意図に応じたより主体的な学習活動に移行する段階であり、しっかりとした目的意識を持って学習に取り組めるよう導入時の働きかけと意義付けが大切である。昨年度の色彩構成学習では、自分なりのイメージを色や形にスムーズに置き換えられた生徒とそうでない生徒、思ったような色彩の混色表現や作業の技能において個々の能力や苦手意識の開きがみられ、完成作品の仕上がりにもばらつきが見られた。そのため、学習の過程で具体的な提示を用いて取り組み内容を徹底させることも必要であることがわかった。そのためには一斉指導の他に、進度に応じた適切なアドバイスや個別指導のありかたについて工夫することも必要である。また、作品の制作過程において生徒同士の意見交流をより積極的に取り入れ、学習活動の活性化を図っていくことも有効と考える。

(2)教材観

公共的な性質を持つ造形活動やコミュニケーションの要素を美術の学習の中に取り込んだ実践は、今後、おおいに研究するべき価値のある題材と考える。そのような公共的な性質を持つ表現活動の一つにポスターがあげられる。従来からポスターはデザイン学習の題材として取り上げられ、その表現を工夫させる手だても多種多様で実践例も豊富である。しかし、本題材ではポスター制作の学習を一個人としての作品の追求に重点を置くのではなく、より効果的な表現を工夫していくためのグループ単位での造形活動のための学習題材として考えた。

美術の学習において、個人の内面や意識に働きかけながら必要な内容を学ばせていく学習は大切であるが、他者とともに構想を組み立てていく面白さや、他者の作品の良さや美しさを素直に味わう体験に触れさせることも大切な学習であると考え。情報を発信する側と受け取る側、それぞれの立場で作品をみつめることで表現活動に対する意識の深まりや変化ができることを期待し、この題材を設定した。

(3)指導観

視覚伝達デザインの中で、啓蒙を主たる目的とするポスターの種類を学び、次に、個人としての視点でとりあげたいテーマをあげさせ、それをもとにグループ編成を行っている。本来、作品としての評価対象であるポスターは個人の取り組みを重視し、その過程や仕上げの内容を評価していくことが多い。しかし、個人を主としたポスター制作は全体の中から数点の優れた作品が期待できる一方、構想力や表現技能に自信を持っていないまま、消極的に学習を終える生徒が多いという課題を抱えている。そこで、共通するテーマによってグループを構成し、仲間同士の模倣に終わらないように、それぞれにバリエーションを考えさせながらより具体的な問題提起や啓蒙を表現するよう段階的な指導を行っていく。

このように、グループ学習の形態によって個人の制作や学習活動を活性化させることを試みるものである。

3 自分の思いや考えをみつめさせ、自分を変えさせていく学びの構想

(1) 「自分をみつめる」場の構想

この単元において、自分をみつめる学習要素を次のように考える。

- ① ポスター制作で取り組むテーマについて、個人の段階からグループ構成に進み、グループ内でテーマを具体化するための効果的な表現を考えながら交流する場面が、自分自身の考えを一步深めていく学習活動にあたる。
- ② グループ内でまとまった表現構想を、学級全体で発表・交流することによって、他のグループの表現の良さや工夫に目を向け、同時に自分たちの表現が適切に相手に伝わっているのか再確認する場面が設定できる。

以降、下描き、転写、彩色とグループ内での検討を交えながら、個々に担当する1枚のポスターを制作する学習活動を行う。グループでの集合作品という性質をもち、最終的な完成に向けて、彩色・コピー(内容/大きさ/レイアウト)など作業の各過程において自分の考えを仲間に伝えながら交流する学習パターンが積み重ねられていくことを構想している

(2) 「自分をみつめる」評価のあり方

この単元においては、作品によって表現しようとするテーマに対する認識が個人の意識レベルからグループ内交流によって深まり、次に、他のグループの学習活動を知ることによって自分自身の学習取り組みを客観的に認識・評価できるよう意図して指導することが大切である。グループ単位なのでリーダーが機能し、制作状況を管理できる利点はあるが、個人としての学習取り組みの評価を公正に行うために留意すべき点も多い。

構想段階の個人の考えが交流活動によってどのように変わっていったのかという経過の記録を残させながら確認していく手法が適切であると考え。テーマ追求のため、造形的活動が個人としての工夫がどのように推移していったのか作品と学習記録を併せて評価していきたい。

4 単元の評価基準と指導の重点

関心意欲態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
伝えたい内容を印象的に相手に伝える工夫をする。	自分の伝えたい内容を具体的なイメージを用いてポスター画面として構想することが出来る。	効果的な構成や色彩などを工夫して目的にあった表現をすることができる。	作品の良さや美しさ、独自の表現の工夫を味わうことが出来る。
他者と交流する中で自分の考えを広めていこうとする前向きな姿勢で取り組む。	人と交流する中で発想を豊かにし、資料を活用して効果的な表現を構想することができる。		作品に向きあいながら、作品に込められた作者の思いを感じ取ることが出来る

5 指導計画 「伝えよう大切なこと」～グループでデザインするポスターの制作～ 15時間

1 ポスターの種類を学び、表現効果を味わう	1時間
2 グループ構成とテーマ・表現構想検討の確認	4時間
3 ポスター原画制作	3時間
4 表現構想最終確認	1時間(本時)
5 彩色	3時間
6 レタリング転写と仕上げ	2時間
7 まとめと鑑賞	1時間

6 本時について

(1) 目標

自分が考えた表現内容や表現方法を客観的な視点でとらえた場合、どの程度効果を上げているのか他者からの評価によって気づくとともに、効果的な表現方法を級友の作品から学んでいく学習活動である。本時の中で、個人やグループの学習が学級全体での作品交流へと広がり、よりよい表現のあり方について共に考えたり、発見をしていく中で自分自身の制作に対する意識が一步高まっていくことをねらいとしている。

(2) 指導の構想

本時までには生徒はグループ内での交流を行いながら、個々に自分のポスターの原画制作を終えるところまで学習活動を進めている。

本時の授業は、個人のポスター構想を机上に並べ、学習課題の確認の後、意見交換のための学習カードを用いながら、「ポスターとしての内容の伝え方」をキーワードに、作品に対する評価を求める。学習カードの内容や記入については曖昧にならないよう、要点をしぼって吟味する。

次に、評価を得た作品の作者は受け取った内容や自分の表現意図を紹介する。ここで出てきた内容は、本字の学習課題に迫るための要点であり、発表者の選出や意図的指名などいくつかの選択肢を準備した上で、いかに生徒からポイントを引き出すかが鍵である。

本時の学習のまとめとして、他者に自分の考えを伝えるための効果的な表現について自分が気づいた内容を学習カードに記入させ、本制作に進む前の最終確認を行う。必要に応じて図柄の小変更やキャッチコピーの変更などに応じられるよう、見通しを持たせて次回からの本制作に向かわせたい。

(3) 具体的評価基準

	おおむね満足できると判断できる状況(B)	「十分満足できると判断できる状況(キーワード(A))	努力を要する生徒への支援の手だての例	評価の方法
関心・意欲態度	作品の表現意図と工夫を読み取ろうとする態度で学習に向かう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的 ・ 意欲的 	目を引く作品や表現方法に注目させる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習シートへの記入 ・ 鑑賞時の態度確認
発想や構想の能力				
表現技能				
鑑賞の能力	複数作品を比較し、作品に表れるメッセージ性の違いをつかむことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明が具体的 ・ 感性を働かせて表現内容を受け止めている 	グループ内の作品同士の関連性を考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習シートへの記入 ・ 発言の記録

(4) 本時の展開

学習過程	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	留意点・備考
課題把握	1 これまでの学習経過を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 作品の構想段階の仕上げになる学習であることを伝える ポスター原画を、机上に並べさせる ポスターを見る側の視点で本時の学習を行うことを伝える 	授業形態はテーマ毎のグループ
課題設定	2 本時の学習課題を把握する	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を提示する 	
5分	お互いのよりよい表現のために、アドバイスをし合おう		
交流する	3 本時の学習方法を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換に用いる記入用紙（ポストイット）と学習カードを配布する 記入の仕方、作品の元への提出の仕方などルール確認を行う 	学習活動をスムーズに運ぶための必要事項なので徹底を図りたい
	4 机上に並べられた作品群を鑑賞する	<ul style="list-style-type: none"> 個々にピックアップする作品を選ばせるために、全体の作品に目を通させる 	作品は番号で示しておく（交流しやすくするため）
	5 記入用紙に鑑賞者の立場で作品を見た印象を記入させる	<ul style="list-style-type: none"> それぞれに取り上げさせる観点 A/表したいことが伝わってくる作品 B/もっと良くなりそうな作品 自分にとって目を引いた作品＋指定したグループの生徒分の作品について記入する 学習カードに自分の記入内容をひかえさせる 	見ながらの記入はメモ程度 一人に与えられるカードはABそれぞれ3枚で計6枚 一旦席に戻し、記入内容をまとめさせる
	6 記入したポストイットを、該当する作品のところに添付する		動きの指示
考えを再構築する	7 カードをもらった作品の作者は、受け取った内容を発表する	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品の表現内容について寄せられた記入を紹介させる 【Aの内容について】 合わせて作者の意図も発表させたい ①受け取ったカードの多い生徒 ②すすんで発言できる生徒 ③巡視した中で発表させたい生徒 	作品が見えるよう投影機とモニターを用いる
	8 印象に残った作品には、表現の中でどんな工夫がなされているのか考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントに記入させる 表現要素についての自分なりの分析を求める 	自発的な挙手を求めるが、指名も考えておく
40分	9 他者からの意見によって自分の表現を見直すことが出来た点、改善したい点をあげさせる	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントに記入 【Bの内容についてはここでふれる】 	可能であれば発言まで求めたい
まとめ	10 次の学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習活動が本制作にどのように生かされるのか説明する 次回の学習内容の確認を行う 	学習プリントを回収
5分			